

学校教育目標		社会を生き抜く自立した児童・生徒 ～やりぬく姿はかっこいいGRIT～			○ 自ら考え、節度ある正しい行動のできる生徒(規律) ○ 将来に向かって希望や目標をもって前進する生徒(感動) ○ 思いやりの心をもって共感し、尊敬しあえる生徒(敬愛)	総合評価	
運営方針		○基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力を身につけさせると共に、主体的に学ぶ意欲と態度を育てる。 ○人権が尊重される社会や地域を築く人間の育成を目指すとともに、生命に対する畏敬の念をもって、互いに信頼と協力を深める。 ○自然や伝統文化を大切に、美しいもの・崇高なものに感動する豊かな情操を養う。 ○規律ある生活を重んじるとともに、基本的な生活習慣を身につけさせ、たゆみなく自らを高めようとする意欲と実践力を養う。 ○健康・安全に留意し、活力ある生活ができる逞しい心身の育成に努める。 ○職場体験学習や修学旅行をはじめとする諸活動や行事を通じてキャリア教育を推進し、キャリアパスポートの充実を図る。 ○いじめを許さない態度を育てると共に、未然防止、早期発見、組織的な対応に努める。					
令和4年度の成果と課題 (○成果 ●課題)		本年度の重点目標		具体的目標			
【学習指導】 ○コロナ禍の中、「読解力の向上」をテーマに、小中合同研修を3回、研究授業・研究協議を2回行うことができた。 ●学力に課題があり、家庭学習がなかなか定着しない生徒に対する取組をより以上に進めていく必要がある。 【生徒指導・安全指導】 ○SCとのカウンセリングにより生徒の不安等を解消できた。ケース会議を随時行う事により、SCからの確かなアドバイスをもらい、情報を共有することができた。 ●生徒の主体的な活動や挨拶運動がより活発になるための手立てを、生徒会を中心に考えていく必要がある。 【道徳指導・特別活動】 ○ローテーション方式の道徳の授業を行うことで、さまざまな教師の指導にふれる機会を持つことができた。 ○生徒の実態や社会的な問題も踏まえ、授業内容を考え、生徒が自ら振り返り、課題意識や目標を持てるようにした。 ●「ふるさと学習」については、今後も具体的なテーマを設定して実施する必要がある。 ●業務や分掌を見直す中で、働き方改革を進めていかなければならない。		○確かな学力 — 基盤的学力の習得 —		学校行事等を精選したり、工夫したりすることによって、授業時間数を増やす。わかりやすい授業を実践する。また、学力定着のため、家庭学習の習慣を定着させる。 「読解力の向上」をめざし、小学校との合同の職員研修を進め、各教科の指導力の向上に努める。			
		○豊かな心 — 対人関係構築力の育成 —		地域行事に積極的に参加したり、地域の人々との交流を深めたりする中で地域の教育力を活用しながら、ふるさとを愛する生徒を育てる。 「あいさつができる児童・生徒」を育てるとともに、対人関係構築力を育成する。			
		○健やかな体・安全 — 体力の向上と健康意識の醸成 —		生徒の規範意識を高めるとともに、よりよい生活習慣が身につくよう取り組む。 危機管理に関する研修の充実を図る。また、関係機関との連携を強化し、SC・SSWの有効な活用を進めていく。			
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果 (5段階評価)		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
学習指導	確かな学力を身につけ、進路を切り開くためにやり抜く力を育てる。	アクティブ・ラーニング(主体的、対話的で深い学習)を各教科で毎時間取り組むことを目標とし、ICTを積極的に活用していく。 基礎学力の定着を図るために、セレクトタイムを実施し、全校体制で取り組む。また、タブレットの活用により、学習意欲を向上させ、家庭学習の推進につなげる。 特別支援教育では、個別支援の充実を図っていく。また、開設されている通級指導教室の充実を図っていく。					
	小中一貫教育を進め、小中間の連携強化のための合同研修や共通の目標を設定する。	「読解力の育成」を小中間共通の教育課題であるとし、小中併せて年間、2回、研究授業・協議を行う。また、総合の時間に、「読解タイム」を継続し、読解力向上を図る。 小中合同で英語教育の強化に取り組む英検受験を奨励する。また、小中間の授業交流や学校行事の交流、また体験入学の充実を図る。					
生徒指導・安全指導	生徒が安心して安全な学校生活を送ることができるようにする。	職員の危機管理意識を高め、校内での事故発生時の動きを研修などの機会を設け、毎学期確認する。今年度、地震に伴う火災を想定した避難訓練を実施する。 生徒の規範意識を高める取り組みとして時間、校則を守るという意識を持たせる。また生徒たちが過ごしやすいうように校則の見直しを図る。					
	体力の向上と健康意識の醸成に努める。	体育の授業を通じて多様な運動技能を身につけさせていく。保健の授業や保健だよりで生活習慣の改善について伝える。 SCやSSWの有効な活用を進め、個別のケース会議などを随時取り入れ、職員間で共有する。					
特別活動・道徳教育	集団や社会の形成者として他者や地域とつながり、共に自らも成長していく態度を育てる。	新型コロナウイルス感染症の感染対策が緩和され、より学校行事を活発にすることが予想される中、生徒発信で活動する機会を通して生徒の主体性を育てる。 牧野小学校と合同で行う清掃活動を通して、地域の環境美化に貢献する。また、福祉体験や職業体験等を通じて他者や地域とのつながりを持たせる。					
	特別の教科 道徳の授業の充実と共に、実践できる生徒を育てる。	特別の教科 道徳において、生徒の心に響く授業の創造を目指し、各学年で教材の選定や指導方法等について検討する。 体験活動の充実を図るとともに、体験活動と道徳の時間とを関連づけた指導を進める。					
働き方改	個々の超過勤務時間を昨年度よりも少なくする。	・働き方改革・業務改善の方法等について研修する。 ・月に1回、一斉退勤日を設ける。					
次今年度への成果課題と							